

石川一雄氏即時奪還を基軸に、差別分断攻撃を粉碎せよ！

「部落の解放なくして労働者の解放はない」
われわれは、三里塚二期決戦の大高揚と結合し、石川一雄氏奪還・狭山闘争の歴史的勝利のために全力で闘いぬかなければならない。

支配権力は、石川氏の無実を百も承知しておりながら、狭山闘争が戦闘的解放運動の核心をなすがゆえに、石川氏を獄舎につなぎとめ、差別裁判を強行し、軍事大国化・改憲・侵略にむけて、差別・分断攻撃を激化させてきている。支配階級は今、戦後の部落（差別）政策を更に反動的に転換させようとしているのである。

80年2・7「再審棄却」、81年3・25「異議申し立て棄却」という暗黒の差別攻撃は、まさにこのことを示している。

又、「特別措置法」のうちきりと、「地域改善対策等特別措置法」（地対法）の立法化策動（これは、現在、行政と解放同盟との協議にもとづく事業から解放同盟はずし、そのことによつて解放運動の完全な屈服をせまろうとするもの）を狙っている。更に、天皇制・天皇制イデオロギー攻撃の強まりなど、こうした攻撃の動向は、部落差別を極限的に激化させるものである。

狭山再審・特別抗告をめぐる対決は、まさに重大な局面をむかえているといわなければならない。とりわけ、昨年10月31日に弁護団が提出した新証拠「小名木証言」は、石川さんの無実を更に百二十％証明するものである。小名木さんは、「犯行現場」だとされている雑木のすぐ隣の畑で当時、農作業をしていたが犯人らしい人物は全く見ていないし、被害者が大声で悲鳴をあげたことになってその声も全く聞いていない、とはっきり証言しているのである。

三里塚Ⅱ狭山闘争の地平を 断固継承・強化して闘いぬこう

「本部」革マル反動分子は、闘争から完全に逃亡し、集会にすら参加もしなかつた。すでに多くの人民から糾弾し尽されているように「水本」のために狭山を利用する」という反動的・差別主義的・利用主義の本性をはつきりと全人民の前にさらけ出したのである。

会場の日比谷野音は定刻より、全国から結集した部落解放同盟・労働者・学生・市民によつて立錫の余地なく埋め尽されるなか、集会は始まった。開会のあいさつにつづき、基調報告にたつた解放同盟・西岡中執は、「今年は、水平社創立60周年、われわれは茨（イバラ）の道を血にそめながら闘ってきた。そして今、石川さんは、『暗闇の獄につながれど心は常に荆冠旗の下』と権力の徹底した獄死攻撃と対決し闘いぬいでいる。石川さんのこの心をわが心として共有し、全国化しなければならぬ。狭山闘争は、八〇年代の軍事大国化、日本の帝国主義と対決する闘いです。この世に熱と光を！全人間の解放を！と願うその中心に、狭山闘争があるのです。狭山闘争の勝利なくして、部落の解放なし。狭山闘争の勝利なくして、全ての人民闘争の勝利なし」と熱烈に訴えた。

弁護団・共闘団体からの挨拶に続き、獄中からの石川さんのメッセージが大きな拍手の中で読み上げられた。「二年前、四ッ谷の再審棄却決定を聞いた時の心の怒りをわすれることはできない。面会に来た両親の年老いた姿を見て涙をおさえる事が出来なかつた。ぜひ、憎むべき警察権力・司法権力との断固たる闘いをお願いしたい。共に狭山勝利・部落完全解放を勝ちとろう」との獄中からの訴え、続いて壇上に立った石川さんのお父さんの「ぜひ、皆さんの力で一雄をとりもどして下さい」との切々たる訴えに、参加者全員が怒りと決意を新たに、石川氏を必ずや実力奪還する事を心に誓い合った。最後に米田統制委員長の前で団結カンパニーを三唱、全員で断固たるデモを貫徹した。

ところでこの日、「本部」革マル反動分子は、闘争から完全に逃亡し、集会にすら参加もしなかつた。すでに多くの人民から糾弾し尽されているように「水本」のために狭山を利用する」という反動的・差別主義的・利用主義の本性をはつきりと全人民の前にさらけ出したのである。



「石川さんを取りもどすぞー！ 狭山=三里塚の勝利かちとるぞー！」寒風をついて、闘争を貫徹。（2月7日、日比谷野音）

2.7 狭山中央闘争 たたかゆれる

2月7日、部落解放同盟および中央共闘・地方共闘の主催による狭山中央集会が日比谷野音で開催された。動労千葉からは、同日、船橋で開催された第3回八〇年代を闘う労組活動家懇談会と並行して、青年部代表30名が参加し、共に闘いぬいた。

日刊
動労千葉

82. 2. 11

No. 966

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇五七（二二）七二〇七